

■ 巻頭言 ■

アジアとの交流を通じて

森内 浩幸

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・小児科学分野

今年には日本小児感染症学会が第50回の総会・学術集会（会頭：大賀正一先生，副会頭：岡田賢司先生）を迎える記念すべき年であり，また本学会の歴史上初めてアジアの学会（第9回アジア小児感染症学会 Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases）と合同開催することになりました。

日本の医学は，古くはアジア大陸から九州北部などを介してもたらされ，江戸時代は長崎出島を通して洋の東西を問わず新しい医学が紹介され，発展してきました。その九州の地でこの合同学会が開催されることに，深い感慨を抱いております。

アジアの国々・地域の中には，最先端の医学・医療が行われているところもあれば，多くの子ども達が医療の恩恵を受けることができないまま命を落としているところもあります。アジアは世界中で最も子どもの数が多い地域であり，子ども達の最大の死因である感染症の診療と研究の発展に努めることは，小児科医にとって重要な使命です。

これまで日本の小児科医は欧米にばかり目を向けてきたように思います。しかし，アジア諸国との身近な交流を通じて様々な病原体が日本に持ち込まれますし，それに対抗する宿主側の遺伝的背景にもアジア人同士共通するところがあります。気候や食生活を含む生活習慣やコンタクトしうる動物の生息域などの環境要因にも，アジア諸国と日本の間には共通点が少なくありません。本学会もアジア小児感染症学会（Asian Society for Pediatric Infectious Diseases）やアジア諸国の小児感染症学会との交流を深め，ともに刺激し合い助け合って，子ども達の健康のために力を尽くしてい

けたらと願っています。

今回の合同学会のテーマは“Global Prospects, Local Progress, and Eternal Promise for Children’s Health”としました。

“Global Prospects”～感染症はグローバルな問題です。様々な病原体が国境を越え，種の壁を越えて子ども達を脅かしています。小児科医も感染症研究者も，グローバルな視点で取り組まなければ，感染症をコントロールすることは非常に困難です。

“Local Progress”～個々の感染症については，それぞれの流行地の状況に応じた取り組みが不可欠です。現場の関係者だけではなく，国境を越えた支援が必要となることもあります。そうして得られた成果は，グローバルな戦略の改善にもつながっていきます。

“Eternal Promise”～子ども達は私達の最高の宝です。子どもが元気に生まれ育っていくことなくして，未来を語ることはできません。多くの子ども達の命を奪い重い後遺症を残す感染症も，私たちが一生懸命取り組めばその多くは予防することも，治すこともできます。できるようになるはずです。

この合同学会がアジアとの交流を深め，小児感染症の診療と研究を向上させ，子ども達の健康増進のための大きな一歩となることを願っています。会員の皆様方のご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。